

美味しいレシピをご紹介いたします。

寒ブリ特集

水揚げ好調！



王道中の王道。
たっぷり脂がのり、
ぷるんとした食感！

ブリのお刺身

材料(作りやすい量1回分)

- ブリの刺身(切り身) / 適量
- ゴマ油 / 適量
- 塩 / 適量

(1)小皿にゴマ油を入れ、塩を溶く。
(2)(1)にブリをつけていただく。

DHAやEPAは煮たり焼いたりすると
流れ出しがあります。お刺身であればこれらの損失はなし。
効率よく栄養素を摂ることができるのも、
お刺身の良いところですよ。

ブリ大根



材料(3~4人分)

- ぶりのアラ / 750gほど
- 大根 / 1本(約1kg)
- 塩(下ごしらえ用) / 小さじ1強
- 酒 / 200ml
- 水 / 600mlほど
- 砂糖 / 大さじ4 (60ml)
- 醤油 / 大さじ5 (75ml)
- しょうが(薄切り) / 適量
- だし汁 / 適量
- みりん / 適量

(1)大根は皮をむき、大きめの乱切りにする。
(2)鍋に大根と漫るくらいの米のとぎ汁、または水を入れて火にかけ下ゆでをし、洗って水気をきる。
(3)ブリは1切れを2~3等分にして沸騰した湯に入れ、表面の色が白くなったらさるに上げる。
(4)しょうがは皮のままよく洗い、薄切りにする。
(5)鍋にだし汁、しょうゆ、砂糖、酒、みりんを合わせて煮立て、ブリ、しょうが、大根を加える。
(6)アグが出たら取り、落とし蓋をして大根に味がよくしまるまで弱めの中火で30~40分煮る。煮汁が多めに残るくらいで火を止め、そのままおいて味を含ませる。

ブリしゃぶ



材料(4人分)

- ブリ / 500g(刺身用、薄造り)
- 水菜 / 1束
- ニンジン / 1本
- 大根 / 15×5cm
- シイタケ / 3個
- 葛きり / 80g

A

- 水 / 5カップ
- 酒 / 1/2カップ
- 昆布 / 1枚(5cm)
- 塩 / 小さじ1

葉物のショウガ、万能ネギ、七味唐辛子、ポン酢はお好みで。

(1)水菜は長さ5cmに切る。ニンジン、大根はビーラーで薄切りにする。シイタケは軸を取り。葛きりは湯でもどしておく。
(2)鍋にAを入れて火にかけ、沸騰寸前に昆布を取り出し、塩を入れる。
(3)全ての具材を2の鍋にさっとくぐらせて、ポン酢と味噌で頂く。

〆はだしきけおにぎりで。お好みの焼きおにぎりに、ブリの旨味がしっかり効いただし汁をかけてくししながら頂く。ぶりしゃぶには、たっぷり脂がのった「腹身」を選ぶ!

ブリのたたき



材料(2人分)

- ぶりの刺身(さく) / 150~200g
- サラダ油 / 小さじ1
- 大根のせん切り / 適量
- 水菜のざく切り / 適量
- 小ねぎ(小口切り) / 3本分
- みょうが(粗みじん切り) / 2個分
- 生姜(みじん切り) / 1片分
- ポン酢 / 大さじ2

(1)フッ素樹脂加工のフライパンにサラダ油をひいて中火にかける。油が温またら、ぶりの全ての面を、それぞれ20秒ずつ焼く。
(2)(1)を氷水に入れて冷やしてから、バットに移してラップをかけ、冷蔵庫で急冷する。
(3)(2)がしっかりと冷めたら、1.5mm程度の厚さに切る。
(4)皿に大根、水菜を敷き、(3)のぶりをのせる。さらに、小ねぎ、みょうが、生姜を散らし、ポン酢をかける。
*焼いてから冷やすのは、美しく切るため。冷やすと切ると、表面が崩れ、ボロボロになりますので気をつけて。

ブリの照り焼き



材料(2人分)

- ぶり (切り身) / 2切れ
- 【たれ】
- しょうゆ / 大さじ2
- 酒 / 大さじ2
- みりん / 大さじ2
- 砂糖 / 大さじ1
- ししとうがらし / 4本
- 塩 / 小さじ1
- 小麦粉 / 適量
- サラダ油 / 大さじ1/2

(1)ぶりの両面に塩小さじ1をふって30分間おく。水で洗い、水けを拭く。
(2)小麦粉を全体に薄くふる。
(3)【たれ】の調味料を合わせる。しょうゆ:酒:みりん:砂糖 = 2:2:2:1 の割合が基本。
(4)フライパンにサラダ油大さじ1/2を熱し、ししとうがらしを焼いて取り出す。続いてぶりを入れ、中火で両面をこんがりと焼く。
(5)紙タオルで余分な油脂を拭き、【たれ】を加える。
(6)少し火を強めて煮詰め、気泡が大きくなったらフライパンを傾けて照りをつけて両面にからめる。ししとうとともに盛りつける。

hokushin press

北辰
MARINE PRODUCTS

2 | FEB
2023

SHRIMP / TUNA / FLOUNDER

EVERYONE LOVES IT!

みんな大好き!
海老、鮪、平目。



SHIBA SHRIMP

garlic shrimp



hokushin
press

ホクシンプレスが選ぶ
2月のおいしい旬魚



【芝海老】

シバエビは生物学上の分類で「十脚目クルマエビ科」に分類されています。「芝海老(シバエビ)」は和名で、東京湾の芝浜一帯で漁獲量が多かったからそう呼ばれるようになりましたが、属は「ヨシエビ属」になります。一般的に呼ばれているヨシエビ属の中では中小型なのですが、やはりクルマエビ科のエビだけあって小さいながら旨味、甘みは抜群です。

[目利きポイント]

シバエビは15cm程になるエビだが、かき揚げなどに使うのであれば小さいものの方が使いやすく、炒め物などにするなら大きい方が良いでしょう。生鮮物は透明感が残っているものを。シバエビは鮮度が落ちるにしたがって白っぽくなり、頭の部分が黒ずんで来ます。



【マグロ】

マグロの王様と称されているのが、刺身や寿司のネタとしても好まれている「本マグロ」です。一般的に日本近海で漁獲されている本マグロの旬の季節は、12~2月の冬といわれています。「天然」のマグロは、広い大海原を自由に泳いで育つため、養殖よりも筋肉質であることが特徴です。そのため味も雑味が少なく、マグロ本来のうま味を味わうことができます。

[目利きポイント]

マグロが長方形の「サク」の状態で売られているときは、表面の筋で見分けることが出来ます。もっとも良いとされるサクは、「天身」と呼ばれる魚の脊髄の部分のサクで、筋が平行に入っています。また、脂が乗ったトロは、なるべく筋が少ないものを選びましょう。身のキメが細かく透明感のある身の端には、白みがかった脂肪の色が入ります。



【ヒラメ】

ヒラメはカレイ目ヒラメ科ヒラメ属の一種で、日本近海の全域と樺太、千島あたりから香港近くまでの南シナ海に分布し、水深10-200mの砂地で小魚や甲殻類、貝類、ゴカイ類などあらゆる動物を捕食し生息しています。体長は1メートルを超えるものもあり、カレイの仲間ではオヒョウに次ぐ大きさ。カレイとの見分けは、左ヒラメに右カレイと言われるのように、左右の眼が体の側面に寄り集まっている、つまり、腹を手前にして置いたとき頭が左に向くのがヒラメです。

[目利きポイント]

ヒラメの場合は身に張りがあるって押してみてしっかりと固いと感じるもので、表面が乾いていない物を選びます。身が柔らかく縮まりがない物は鮮度が落ちているか、新鮮でも食感や脂の乗りが著しく良くないものと思ってください。